

第4章 類型別方針

4-1 建築物系施設

本市の建築物系施設に関する類型別の方針は、次のとおりです。

4-1-1 市民文化系施設

(1) 集会施設（近隣センター、自治会館等）

現状と課題	
- 集会施設は、市内に38施設（うち、同一敷地内に存する体育室が9施設）あり、近隣センターと自治会館に分類されます。なお、平成28年4月1日をもって、旧沼南公民館が沼南近隣センターに移行しています。 - 近隣センターは、市民に自主的な活動の場を提供し、市民相互の交流を支援して、地域づくりに関する事業を推進していくために設置されました。 - 自治会館は、旧沼南町が集会所（学習等供用施設）として建設した藤ヶ谷区民会館のほかに、清掃工場及び最終処分場の運営に伴う周辺生活環境の確保のために設置された3施設があります。 - 利用率が低い施設が少なからず存在することから、実状やニーズにあわせて施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）を検討する必要があります。	
施設管理の方向性	
<u>※施設管理に関する中長期的な（平成28年度〔2016年度〕から平成67年度〔2055年度〕までの40年間を見通した上での）方向性を示します。</u>	
早期に取り組む事項	中長期的に取り組む事項
<u>※早期（特に、第1期計画期間となる10年間）に取り組む事項を示します。</u>	<u>※中長期的（平成28年度〔2016年度〕から平成67年度〔2055年度〕までの40年間）に取り組む事項を示します。</u>

「第4章 類型別方針」及び「第5章 地域別方針」作成例

(第4章 類型別方針)

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

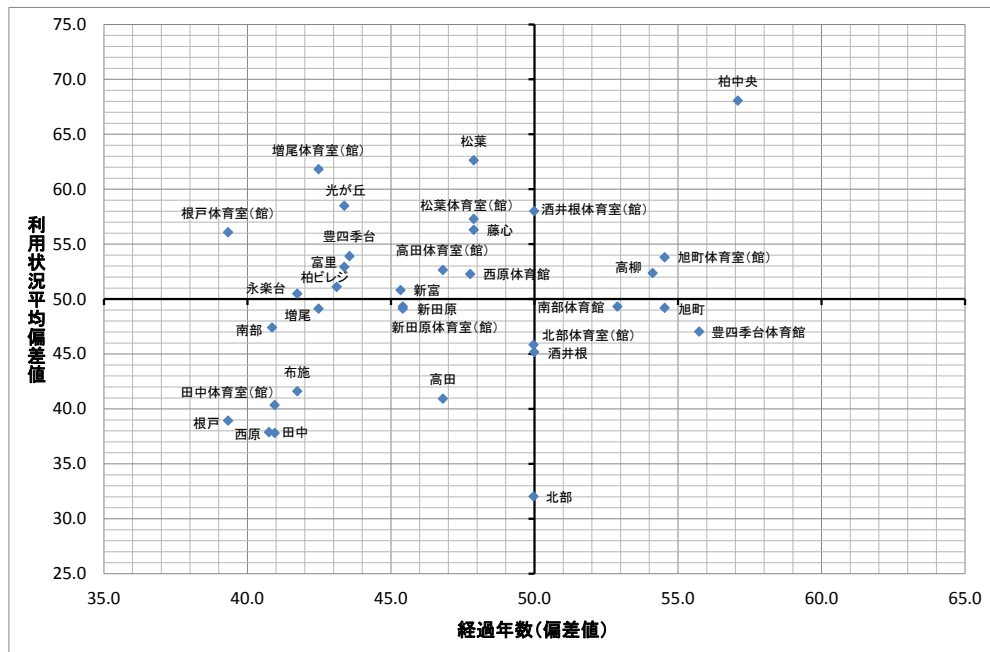


図1 近隣センターの品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

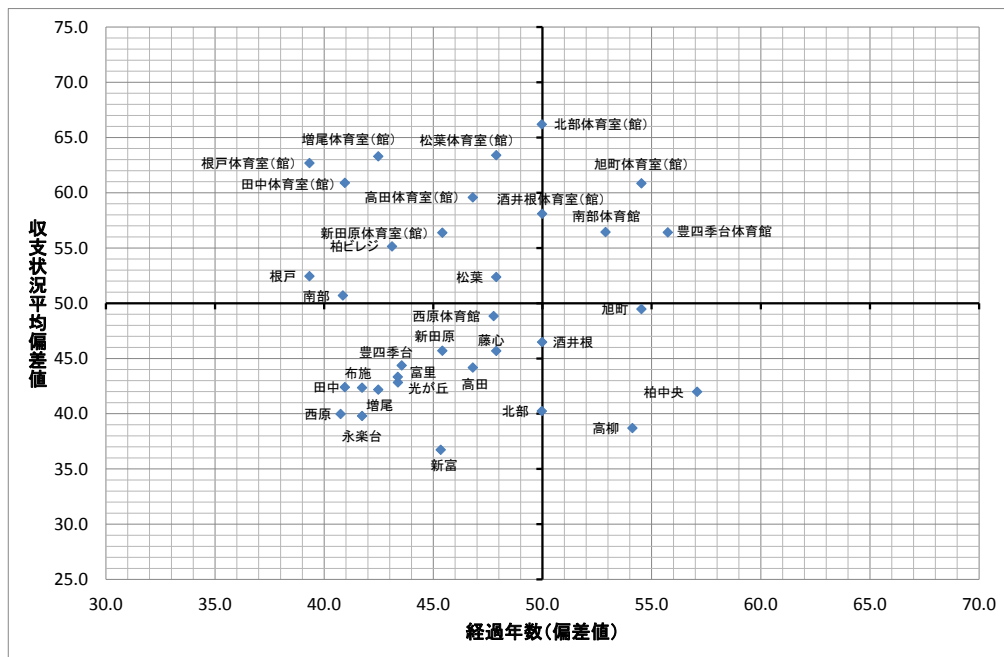


図2 近隣センターの品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

4-2 インフラ系施設

本市のインフラ系施設に関する類型別の方針は、次のとおりです。

4-2-2 上水道

現状と課題	
・上水道の施設（土木構造物，建築物，機械・電気設備等）や管路の多くは，人口急増期に建設されており，建設から30年以上を経過したものが多く存在しています。市民生活の基盤となる重要なライフラインとして，給水できなくなる事態を招かないための適切な維持管理が必要です。 ・これまでも老朽化した水道施設や管路の更新を積極的に進めてきましたが，法定耐用年数で更新する場合の費用は，今後，大幅に増大していく見通しです。このため，施設の健全性を確保しながら事業を実施するために，アセットマネジメントを実施し，一律の法定耐用年数ではなく，配水管・導水管・送水管等の施設・管路の種別ごとに，使用年数の実績或使用環境，劣化状況等を踏まえた更新基準年数を市独自に設定し，財政計画との整合を図っています。 ・これらの計画的な取組から，今後おおむね40年間は，現行の水道料金を維持出来る見通しとしていますが，人口減少や社会経済変化による需要の減少によっては料金改定が必要になることも考えられます。 ・また，富勢水源地の廃止及び第一水源地の休止など総量抑制にも取り組んでいますが，北部地域は人口増加により需要が伸びている地域については，施設を増やす検討も必要です。	
施設管理の方向性	
<u>※施設管理に関する中長期的な（平成28年度〔2016年度〕から平成67年度〔2055年度〕までの40年間を見通した上での）方向性を示します。</u>	
早期に取り組む事項	中長期的に取り組む事項
<u>※早期（特に，第1期計画期間となる10年間）に取り組む事項を示します。</u>	<u>※中長期的（平成28年度〔2016年度〕から平成67年度〔2055年度〕までの40年間）に取り組む事項を示します。</u>

5-2-6 豊四季台地区

(1) 地区の概要

- ・ 豊四季台地区は、本市の中央部に位置し、柏駅西口近辺から流山市との市境までと、南東から北西にかけて長い地域となっています。
- ・ 柏駅西口近辺は、中高層建築物が立ち並び、その外側に住宅地が、その外側に住宅と農地・森林等の自然環境が混在した地区構造となっています。
- ・ 特に、大堀川沿いに農地や森林が多く残り、その北東部では、柏駅周辺の大規模火災対策として、(仮称)篠籠田防災公園の整備が進められています。
- ・ 地区中央部には、豊四季台団地が立地し、集合住宅群を形成しています。1964年に入居開始の大規模団地で、現在は一部で建て替えが進んでいます。
- ・ 豊四季台団地は、地域包括ケアシステムのモデル拠点整備が進められており、高齢社会において、在宅医療の推進及び生きがい就労の創生の取組が進められています。

(2) 公共施設の状況

- ・ 主な公共施設として、小学校2、中学校が2施設、近隣センターが2施設、保育園が4施設あります。
- ・ 人口1人あたりの公共施設（地域対応施設）保有量は、平均（1.15㎡）よりやや高い値です。
- ・ 柏第六小学校の児童数が市平均より大幅に少なくなっており、また、建築後の経過年数も50年近くになっています。図書館豊四季台分館の経過年数も50年近くになっています。
- ・ 地区内の保育園の園児数は、4園のうち3園が市の平均よりも少なくなっています。

表1 地区及び公共施設（地域対応施設）保有量の概要（豊四季台地区）

【平成26年度末現在】	豊四季台地区	中分類	小分類	施設数	延床面積(㎡)		
地区人口(人)	30,301	01集会施設	01近隣センター	2	2,013		
地区面積(k㎡)	2.8		02自治会館等				
面積1k㎡あたり公共施設保有量(㎡)	14,944	01図書館	01図書館	1	199		
人口1人あたり公共施設保有量(㎡)	1.38	01学校	01小学校	2	12,057		
01近隣センター 02自治会館等 01図書館 01小学校 02中学校 01保育園 02こどもルーム 01消防庁舎 02消防団器具置場			02中学校	2	22,804		
			01保育園	01保育園	4	3,567	
			02幼児・児童施設	02こどもルーム	2	225	
			02消防施設	01消防庁舎	1	859	
				02消防団器具置場	1	120	
			合計			15	41,843

「第4章 類型別方針」及び「第5章 地域別方針」作成例

(第5章 地域別方針)

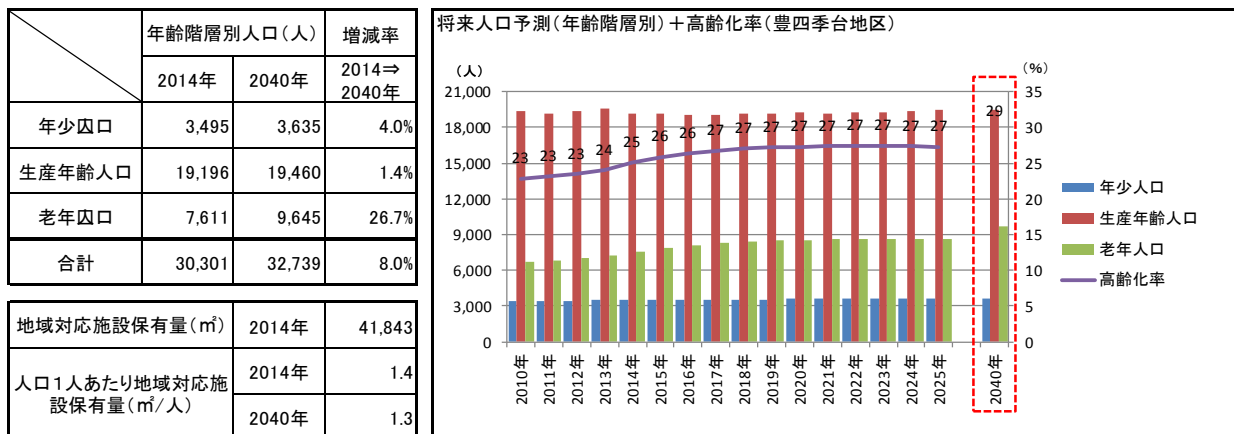
表2 地区保有公共施設（地域対応施設）の詳細（豊四季台地区）

施設名称	延床面積 (㎡)	利用量(H24～H26)			利用率 (%)	経過年数 (年)	市負担額 (千円)
			市内平均				
豊四季台近隣センター	1,001	3年平均利用者数(人)	47,114	34,670	48.6%	32.8	19,673
豊四季台近隣センター体育館	1,012	3年平均利用者数(人)	26,066	21,822	56.4%	18.1	6,930
図書館豊四季台分館	199	3年平均年間貸出冊数(冊)	150,811	117,010		49.9	16,957
柏第六小学校	5,776	3年平均児童数(人)	209	511		46.9	85,755
柏第七小学校	6,281	3年平均児童数(人)	592	511		43.2	111,787
柏中学校	14,928	3年平均生徒数(人)	586	499		12.9	98,705
柏第三中学校	7,876	3年平均生徒数(人)	340	499		34.0	83,436
あけぼの保育園	591	3年平均園児数(人)	88	133		42.7	5,601
豊四季保育園	889	3年平均園児数(人)	124	133		47.7	7,495
豊四季乳児保育園	983	3年平均園児数(人)	110	133		38.6	8,336
しこだ保育園	1,104	3年平均園児数(人)	141	133		34.0	8,280
柏六小こどもルーム	103	3年平均入所児童数(人)	27	42		3.1	5,759
柏七小こどもルーム	122	3年平均入所児童数(人)	65	42		43.2	5,131
旭町消防署	859	3年平均出動件数(件)	3,056	2,106		26.1	357,414
柏市消防団第2方面第5分団器具置場	120	保有面積(㎡)	120	75		13.3	
合計	41,843				平均	32.4	

(3) 人口の現状と見通し

- ・今後、人口は増加していくことが見込まれています。年齢階層別に見ると、年少人口及び生産年齢人口に比べ、老年人口の増加率が大きくなっています。

表3 将来人口予測及び人口増減に基づく人口1人あたり公共施設保有量の変化（豊四季台地区）



(4) 地区の施設整備の方針

※地区の施設整備に関する中長期的な（平成28年度[2016年度]から平成67年度[2055年度]までの40年間を見通した上での）方向性を示します。